

横浜の職人カタログ

ペンキの達人  
とそーや  
塗装屋さん



よこはましぎのうぶんかいかん  
横浜市技能文化会館



とそ<sup>と</sup>う<sup>う</sup>や<sup>や</sup>  
塗<sup>と</sup>装<sup>う</sup>屋<sup>や</sup>さん<sup>さん</sup>って  
ど<sup>ど</sup>ん<sup>ん</sup>な<sup>な</sup>お<sup>お</sup>仕<sup>し</sup>事<sup>ごと</sup>なの<sup>の</sup>？

おも<sup>し</sup>な<sup>ごと</sup>仕<sup>じ</sup>事<sup>ごと</sup>は<sup>は</sup>住<sup>じ</sup>宅<sup>たく</sup>や<sup>や</sup>ビ<sup>び</sup>ル<sup>る</sup>な<sup>な</sup>ど<sup>ど</sup>の<sup>の</sup>建<sup>けん</sup>築<sup>ちく</sup>物<sup>ぶつ</sup>の<sup>の</sup>カ<sup>か</sup>ベ<sup>べ</sup>や<sup>や</sup>  
屋<sup>や</sup>根<sup>ね</sup>な<sup>な</sup>ど<sup>ど</sup>の<sup>の</sup>塗<sup>と</sup>装<sup>う</sup>だ<sup>だ</sup>よ<sup>よ</sup>。

ハ<sup>は</sup>ケ<sup>け</sup>や<sup>や</sup>ロ<sup>ろ</sup>ー<sup>ー</sup>ラ<sup>ら</sup>ー<sup>ー</sup>、ス<sup>す</sup>プ<sup>ぷ</sup>レー<sup>ー</sup>な<sup>な</sup>ど<sup>ど</sup>さ<sup>さ</sup>ま<sup>ま</sup>ざ<sup>ざ</sup>ま<sup>ま</sup>な<sup>な</sup>道<sup>どう</sup>具<sup>ぐ</sup>を<sup>を</sup>  
使<sup>し</sup>用<sup>よう</sup>し<sup>て</sup>作<sup>さ</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>ょう<sup>よう</sup>を<sup>を</sup>進<sup>すす</sup>め<sup>て</sup>い<sup>い</sup>く<sup>く</sup>ん<sup>だ</sup>。建<sup>けん</sup>築<sup>ちく</sup>の<sup>の</sup>塗<sup>と</sup>装<sup>う</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>  
見<sup>み</sup>ば<sup>え</sup>を<sup>を</sup>良<sup>よ</sup>く<sup>く</sup>す<sup>る</sup>た<sup>た</sup>め<sup>め</sup>だ<sup>だ</sup>け<sup>け</sup>で<sup>で</sup>な<sup>な</sup>く<sup>く</sup>雨<sup>あめ</sup>や<sup>や</sup>湿<sup>し</sup>気<sup>け</sup>や<sup>や</sup>日<sup>に</sup>光<sup>こう</sup>  
な<sup>な</sup>ど<sup>ど</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>建<sup>た</sup>て<sup>て</sup>もの<sup>もの</sup>を<sup>を</sup>守<sup>まも</sup>る<sup>る</sup>役<sup>やく</sup>割<sup>わり</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>よ<sup>よ</sup>。

最<sup>さい</sup>近<sup>きん</sup>は<sup>は</sup>新<sup>あら</sup>た<sup>た</sup>な<sup>な</sup>塗<sup>と</sup>料<sup>りょう</sup>が<sup>が</sup>ど<sup>ど</sup>ん<sup>ん</sup>ど<sup>ど</sup>ん<sup>ん</sup>開<sup>かい</sup>発<sup>はつ</sup>さ<sup>さ</sup>れ<sup>れ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>  
技<sup>ぎ</sup>術<sup>じゆつ</sup>だ<sup>だ</sup>け<sup>け</sup>で<sup>で</sup>な<sup>な</sup>く<sup>く</sup>素<sup>そ</sup>ざ<sup>ざ</sup>い<sup>い</sup>や<sup>や</sup>塗<sup>と</sup>料<sup>りょう</sup>の<sup>の</sup>幅<sup>は</sup>び<sup>ひろ</sup>い<sup>い</sup>知<sup>ち</sup>識<sup>しき</sup>が<sup>が</sup>必<sup>ひつ</sup>要<sup>よう</sup>と<sup>と</sup>  
さ<sup>さ</sup>れ<sup>れ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>ん<sup>だ</sup>。

さ<sup>さ</sup>ま<sup>ま</sup>ざ<sup>ざ</sup>ま<sup>ま</sup>な<sup>な</sup>色<sup>いろ</sup>の<sup>の</sup>塗<sup>と</sup>料<sup>りょう</sup>を<sup>を</sup>混<sup>ま</sup>ぜ<sup>あ</sup>合<sup>あ</sup>わ<sup>わ</sup>せ<sup>せ</sup>て<sup>て</sup>色<sup>いろ</sup>を<sup>を</sup>作<sup>つく</sup>る<sup>る</sup>調<sup>ちよう</sup>  
色<sup>しよく</sup>が<sup>が</sup>で<sup>で</sup>き<sup>き</sup>る<sup>る</sup>よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>に<sup>に</sup>な<sup>な</sup>っ<sup>て</sup>一<sup>いち</sup>人<sup>にん</sup>前<sup>まえ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>え<sup>え</sup>る<sup>る</sup>た<sup>た</sup>め<sup>め</sup>  
色<sup>しき</sup>彩<sup>さい</sup>感<sup>かん</sup>覚<sup>かく</sup>も<sup>も</sup>必<sup>ひつ</sup>要<sup>よう</sup>と<sup>と</sup>な<sup>な</sup>っ<sup>て</sup>く<sup>く</sup>る<sup>る</sup>よ<sup>よ</sup>。



# と そ う や わ ざ 塗 装 屋 さ ん の 技 ①



① 塗 装 す る 前 に 養 生 ( 周 り を 汚 さ な い よ う に ビ ニ ー ル で 覆 う 作 業 ) を し ま す 。



② この 養 生 の テ ー プ を ま っ す ぐ 貼 る だ け で も 初 心 者 に は 難 し い と い い ま す 。



③ 窓 に も 養 生 を し ま す 。 養 生 と 下 地 処 理 に し っ か り 時 間 を 使 い ま す 。



④ 下 地 の 調 整 を し ま す 。 ヘ コ ミ キ ズ な ど を パ テ で 埋 め ま す 。



⑤ や す り を か け て 塗 装 面 を 平 ら に し ま す 。



⑥ 塗 装 の 前 に は 塗 料 を よ く か き 混 ぜ ま す 。 色 の 成 分 が 缶 の 中 で 分 離 し て し ま う た め で す 。

# と そ う や わ ざ 塗装屋さんの技②



⑦ ローラーバケ<sup>りよう</sup>を利用して<sup>とそう</sup>塗装する<sup>ばあい</sup>場合  
まず<sup>とりよう</sup>塗料をローラーにまんべんなく<sup>ふく</sup>含ませます。



⑧ 塗料が均一<sup>としよう きんいつ</sup>につくように<sup>すこ</sup>少し斜めに<sup>なな</sup>  
ローラーを動かして<sup>うご</sup>塗り広げて<sup>ぬ ひろ</sup>いきます。



⑨ ハケは<sup>とりよう</sup>塗料で固まらない<sup>かた</sup>ように<sup>いっかい</sup>一回使  
ったらシンナーにつけて<sup>おき</sup>おきます。もう  
一度<sup>いちど</sup>使う<sup>つか</sup>場合は<sup>ばあい</sup>塗料につけて、<sup>とりよう</sup>ハケになじ  
ませて<sup>め</sup>から塗ります。



⑩ ハケを一定<sup>いっていほうこう</sup>方向に<sup>め</sup>すばやく塗って<sup>しあ</sup>仕上  
げます。

※ 塗装<sup>とそう</sup>の現場<sup>げんば</sup>においては<sup>ようじょう</sup>養生と<sup>したじしより</sup>下地処理が<sup>なに</sup>何より<sup>だいじ</sup>大事<sup>だいじ</sup>だそうです。

塗装<sup>とそう</sup>にかかる<sup>じかん</sup>時間の<sup>ばい</sup>倍<sup>ようじょう</sup>ぐらい<sup>じかん</sup>養生に<sup>じかん</sup>時間を<sup>じかん</sup>かける<sup>じかん</sup>そうですよ。



# と そ う や れ き し 塗装屋さんの歴史

古代から塗るという作業は、しぶ屋、ぬし屋、提灯屋などが行い鎌倉武家文化で開花してきました。塗装発祥については諸説あるものの、現在主に塗装に使われるペンキを日本ではじめて塗ったのは江戸の渋塗り職人(渋塗りとは、柿渋で塗ること)の町田辰五郎さんといわれています。1854年にペリーが横浜の浦賀に2度目の来航をした時点で、横浜談判所(交渉をする応接所)の外側のペンキ塗りがはじめてといわれています。

ペンキが知られていなかったような時代なので辰五郎さんは本牧沖に停泊していた米船「アンダリア号」でペンキと油を入手し、なんとか塗装工事を終わらせる事が出来ました。

これが日本の近代塗装業のはじまりといわれています。

# と そ う や み り よ く 塗装屋さんの魅力①

げんえき しやくにん しごと おもしろ き  
現役の職人さんに仕事の面白さを聞きました！

☆この道35年！ ちば ふじお  
地葉 不二夫さん

あつ なかさぎよう こと たいへん たいへん とそろう  
暑い中作業をする事もあるので大変といえは大変ですが、やはり塗装を  
してきれいになるのが楽しいですね。ふるびていたり、汚れていた部屋が  
きれいになるのは嬉しいものです。

めづら もの め ふね えんとつ め  
珍しい物を塗ることもあって、舟の煙突を塗ったこともあるんですよ。  
あしば く めないのかんいてき な ゴンドラ(板にロープをつけたようなもの)  
に乗って塗りました。

あとおもしろ かったのはおおきな かもつせん うちがわ  
あと面白かったのは大きな貨物船の内側をクレーン車にのって吹き付け  
で塗装したことです。かべが4~50mもある船だったんですよ。船を港につ  
けておくとそれだけでお金がかかるという事で貨物を降ろしたらその日の  
よるから さつそくさぎよう はじ つぎ あさ までに さぎよう お  
夜から早速作業を始めました。次の朝までに作業を終わらせないと船がそ  
のまま しゅっこう してしまうということで、なにがなんでも めりお  
いう気持ちで終わらせましたよ(笑)。

そーいった にちじょう にはない めづら たいけん できる こと みりよく  
そういった日常にはない珍しい体験ができる事も魅力といえは魅力  
でしょうか。



# と そ う や み り よ く 塗装屋さんの魅力②

げんえき しよくにん しごと おもしろ き  
現役の職人さんに仕事の面白さを聞きました！

うぶかたとそう ゆう だいひょうり じ うぶかたかずはる  
生形塗装(有) 代表理事 生形一治さん

きゃくさま とそう い うれ  
お客様に「塗装をしてきれいになったね。」と言われるとすごく嬉しいですね。

むかし ふうすい は や とき えんぎ こと がいへき きいろ とそう いえ  
昔、風水が流行った時に縁起がいいという事で外壁に黄色い塗装をした家  
を、今度は新しくピンクに塗り替えた事もありました。お客様に嬉しそうに「離  
れて住んでいる息子が帰ってきてても色が違っちゃってわからないかもね。」と言  
われましたよ。塗り替える事自体も楽しいですし、お客さんとこういったやりとり  
ができるのも楽しみの一つですね。



うぶかた かずはる  
生形 一治さん

ちば ふじお  
地葉 不二夫さん

# と そ う や 塗装屋さんになるには

せんもんがっこう ぎじゆつ まな とそうがいしゃ しゆうしょく  
専門学校で技術を学んでから塗装会社に就職するか、  
とそうがいしゃ きんむ しよくぎょうくんれんこう べんきょう  
塗装会社に勤務しながら職業訓練校で勉強することも  
かのう とそうぎょう にきゅうとそうぎのうし いっきゅうとそう  
可能です。塗装業には「二級塗装技能士」や「一級塗装  
ぎのうし しかく なんねん じつむけいけん へ  
技能士」の資格があります。何年か実務経験を経てから  
じゆけん しかく え で き さいきん いろ め  
受験する資格を得ることが出来ます。最近では色を塗る  
だけでなく こうきん ぼうすい しより とそう  
抗菌や防水などの処理をして塗装をするな  
ど、そざい とりょう たい ちしき ぎじゆつりよく もと  
ど、素材や塗料に対する知識や、技術力が求められて  
います。

さまざま いろ とりょう ま あ いろ つく ちようしょく で き  
様々な色の塗料を混ぜ合わせて色を作る調色が出来  
るようになることが必要なため、しきさいかんかく ひつよう  
色彩感覚も必要となります。  
ます。

いちにんまえ ねん どりよく  
一人前になるには10年はかかり、コツコツ努力できる  
ひと  
人がむいているそうです。

☆メ毛☆



☆メ毛☆



よこはましぎのうぶんかかいかんしていかんりしや  
**横浜市技能文化会館指定管理者**  
かぶしきがいしやあしたば はっこう  
**株式会社明日葉 発行**

〒231-0031 よこはましなかくぼんだいちよう 横浜市中区万代町2-4-7

<https://gibun.jp>

2023年版